

## 20周年をお祝いして

本学大学院心理臨床学専攻教授（専攻主任）

伊 東 真 里

神戸親和女子大学大学院文学研究科が開設20周年を迎えましたこと、心からお祝い申し上げます。私は、2010年4月に本学に着任し、着任当初から大学院の担当もさせていただいておりました。また、2015年から現在に至るまで心理臨床学専攻の専攻主任を務めさせていただいております。

この20年間に、132名の修了生が臨床心理士の資格を取得し、医療・福祉・教育などさまざまな分野で活躍しています。また、公認心理師の国家資格化がスタートしてから、修了生の中から臨床心理士・公認心理師のW取得者も誕生しています。

着任当初は、心理臨床学専攻の入学者数も10人以上であり、3名の院生のゼミ担当をさせていただいたこともありました。それ以降、少子化の影響を受け、入学者数が5名程度と半減し、2018年には本学からの入学者数は0人になり、他大学からの入学者数が1名という状況になりました。専攻としては、何か対策を講じないといけないということで検討しました。学内の学生が他大学大学院に進学する傾向がありましたので、何とか学内の学生を確保しなければいけないため、学内推薦入試の制度をつくりました。出願資格としては、GPAが3.3以上の者で、試験科目は小論文と面接で行いました。その制度を導入してから、入学者数は5名程度に戻りました。その後、入学者数に上昇傾向がでてきたのが、公認心理師の国家資格化であると思います。公認心理師の制度がスタートしてから、心理師を目指す学生が増え、学部で心理実習の履修を望む学生も増加傾向にあります。そして、学部で心理実習を履修した学生は、本学大学院に進学するという流れが出来上がってきており、現在8名程度の学生が進学してきております。今後さらに増えていく可能性が予想されます。

臨床心理士・公認心理師になるためには、幅広い心理学・臨床心理学の諸理論を学ぶとともに心理アセスメントの能力と心理臨床の実践力を身につけることが不可欠です。大学院担当教員が専門性を生かして院生の教育にあたっています。

これまで、院生にきめ細かい指導を行ってこられた大学院担当教員の方々、心理教育相談室で教育機能の充実をはかってこられたスタッフ一同に感謝申し上げます。

これから、学部教育と大学院教育の連携をはかること、さらに、これまで積み上げてきた研究成果、育てた人材を社会に還元し、より一層社会貢献できる心理臨床学専攻として、その存在意義を確立していくことが今後の課題であると考えています。